

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年8月14日

【四半期会計期間】 第108期第1四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 東部ネットワーク株式会社

【英訳名】 TOHBU NETWORK CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 若山 良孝

【本店の所在の場所】 横浜市神奈川区栄町2番地の9

【電話番号】 045(461)1651(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務兼専務執行役員 三澤 秀幸

【最寄りの連絡場所】 横浜市神奈川区栄町2番地の9

【電話番号】 045(461)1651(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務兼専務執行役員 三澤 秀幸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第107期 第1四半期累計期間 | 第108期 第1四半期累計期間 | 第107期 |
|------------------------------|------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | | 自 2019年4月1日 至 2019年6月30日 | 自 2020年4月1日 至 2020年6月30日 | 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 |
| 売上高 | (千円) | 3,058,218 | 2,689,224 | 12,603,859 |
| 経常利益 | (千円) | 158,315 | 227,315 | 683,992 |
| 四半期(当期)純利益 | (千円) | 117,208 | 160,695 | 440,850 |
| 持分法を適用した場合の 投資利益 | (千円) | | | |
| 資本金 | (千円) | 553,031 | 553,031 | 553,031 |
| 発行済株式総数 | (千株) | 5,749 | 5,749 | 5,749 |
| 純資産額 | (千円) | 17,982,204 | 18,367,235 | 18,139,361 |
| 総資産額 | (千円) | 21,770,069 | 21,957,059 | 21,838,067 |
| 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 | (円) | 21.64 | 29.68 | 81.41 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | |
| 1株当たり配当額 | (円) | | | 15.00 |
| 自己資本比率 | (%) | 82.6 | 83.7 | 83.1 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には消費税等は含んでいません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載していません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期累計期間（2020年4月1日～2020年6月30日）におけるわが国経済は、世界規模での新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、経済・社会活動が停滞したことで国内経済は急速に悪化し、先行きは今まで経験したことのない不透明感が続いており、極めて厳しい状況となりました。

当社の主力事業領域である貨物自動車運送業界におきましても、経済活動停滞の影響は大きく、輸送量、営業収入は大幅に悪化しており、今後につきましては、燃料コスト負担の軽減が予想されるものの、新型コロナウイルス感染拡大の収束時期が見通せない状況下で、物流事業に対するマイナス影響の長期化が懸念されております。

このような状況の下、当社は従業員およびその家族の安全確保を最優先事項と位置づけ、感染防止対策を講じるとともに、事業への影響を最小限に抑えるべく必要な対応を行ってまいりました。

営業面においては、前期に引き続き、3PL事業（物流の一括受注）を積極的に推進するとともに収益基盤の改革に努め、収益性の向上に取り組んでまいりました。

今後も東部滋賀物流センター（滋賀県）の2020年8月稼働を皮切りに、新規案件についてもスピード感をもって順次展開してまいります。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,689,224千円（前年同期比12.1%減）、営業利益173,204千円（前年同期比22.2%増）、経常利益227,315千円（前年同期比43.6%増）、四半期純利益160,695千円（前年同期比37.1%増）となりました。

セグメント別の業績につきましては、次のとおりであります。

（貨物自動車運送事業）

飲料輸送は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、政府による緊急事態宣言が発出され、外出自粛の要請による個人消費の急激な低下により、製造が減少したことで輸送数量も減少し、さらに、例年の大型連休の消費増に伴った輸送増も逸したことも重なり、大幅な減収となりました。セメント輸送は、前期並みに推移いたしましたが、受注量は伸びず減収となりました。

以上から、当事業の売上高は、関連業務の荷役・保管作業収入を含め、1,790,528千円（前年同期比18.5%減）となり、セグメント利益は、減収予測をもとに、設備投資を中止したことによる減価償却費の減少や、燃料費の低下等により運送原価が減少したことから、115,980千円（前年同期比138.4%増）となりました。

（商品販売事業）

石油販売は、引き続き収益性に重点を置いた取引を継続しておりますので減収となりました。セメント販売につきましては、需要増に対応した販売量が増加し、大幅な増収となりました。

この結果、当事業の売上高は、546,855千円（前年同期比10.0%増）となり、セグメント利益は6,382千円（前年同期比35.4%増）となりました。

（不動産賃貸事業）

自社施設のオフィスビルで、一部が空室となっており、減収となりました。借上施設の提供につきましては、大きな異動はなく前期並みでありました。

この結果、当事業の売上高は316,613千円（前年同期比2.3%減）となり、セグメント利益は146,610千円（前年同期比9.5%減）となりました。

（その他事業）

自動車整備事業は、一般修理の受注減が影響し減収となりました。

この結果、当事業の売上高は、35,227千円（前年同期比13.4%減）となり、セグメント利益は5,782千円（前年同期比19.5%減）となりました。

財政状態の分析は、次のとおりであります。

（資産）

当第1四半期会計期間末の総資産額は、21,957,059千円となり、前事業年度末と比較し、118,992千円増加いたしました。これは主に営業未収入金54,642千円、有形固定資産が78,423千円それぞれ減少した一方で、現金及び預金が109,923千円、投資有価証券が150,931千円それぞれ増加したことによるものであります。

（負債）

当第1四半期会計期間末における負債総額は、3,589,824千円となり、前事業年度末と比較し、108,881千円減少いたしました。これは主に、未払金が92,470千円、未払法人税等が44,086千円及び引当金が47,542千円減少した一方で、未払費用が83,091千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期会計期間末における純資産合計は18,367,235千円となり、前事業年度末と比較し、227,873千円増加いたしました。これは主に、四半期純利益160,695千円及び剰余金の配当40,882千円により利益剰余金が119,813千円増加し、その他有価証券評価差額金104,974千円増加により評価・換算差額金等が108,060千円増加したことによるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

基本方針の内容の概要

当社取締役会は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかし、荷主様との共存共栄を図るための商品販売事業や、保有不動産の有効利用による事業の安定化と加えて3PL(物流の一括受注)による提案物流等の新事業を構築する不動産賃貸事業、自動車整備事業・保険代理業等も組み込んだ総合物流業である当社及び当社グループ(以下「当社グループ」といいます。)の経営においては、当社グループの有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果、そして、主力事業である公共性の高い貨物自動車運送事業という当社グループに与えられた社会的な使命、それら当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を構成する要素等への理解が不可欠です。これらを継続的に維持、向上させていくためには、当社グループの強みである、(a)安全が絶対条件である危険物輸送の高度な知識を、一般貨物輸送に取り込み商品化した事業展開、(b)取引先の多面的なニーズに応え高品質の物流を提供するノウハウと専門性、(c)労使一体となった事業の推進等独自性を機軸とした中長期的な視野を持った経営的な取組みが必要不可欠であると考えております。当社グループの財務及び事業の方針の決定を支配する者によりこうした中長期的視野を持った経営的な取組みが実行されない場合、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益や当社グループに関わる全てのステークホルダーの利益は毀損される可能性があります。

当社は、当社株式の適正な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただくようIR活動に努めておりますものの、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価が妥当かどうかなど買付者による大規模な買付行為の是非を株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠です。さらに、当社株式の継続保有をお考えの株主の皆様にとっても、かかる買付行為が当社グループに与える影響や、買付者が考える当社グループの経営に参画したときの経営方針、事業計画の内容、当該買付行為に対する当社取締役会の意見等の情報は、当社株式の継続保有を検討するうえで重要な判断材料となると考えます。

基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社は、創業以来、貨物自動車運送事業を基盤事業として、長い歳月をかけて築いた輸送ノウハウと顧客との深い信頼関係が、大手優良企業との強固な取引関係を実現していると考えています。その他、石油・セメント類の販売・各種自動車の販売及びリースなどを行う商品販売事業や、保有資産の有効利用・提案物流による施設を提供する不動産賃貸事業等、についても強化しており、現在では、当社が展開するビジネス領域は5セクション

となっております。当社は、広い視野で積極的にビジネスを開拓しながら、確実な収益性や効率性を追求し、着実な事業の多角化を推進しています。

当社は、次の3点につき中長期的な観点から取り組んでいます。

- (a) アウトソーシングのニーズを取り込むため、物流の『最適化提案営業』をスローガンとして、製造から保管業務、輸送までの工程を一元化した『システム物流』を3PL(物流の一括受託)事業として拡大を目指してまいります。
- (b) 長期的成長と存在感のある企業を目指し、ローコスト・オペレーションを実践するために、大型化(トレーラー化)を推進し複合輸送を強化することで、稼働率アップ及び輸送力アップを実現してまいります。また、生産性の向上と合理化を図ると共に、環境配慮型経営を実行してまいります。
- (c) 新輸送システムによって、季節変動する物量が売上高と利益を生む環境を生かし、荷主に安定的な商品輸送を提供すると共に、新しい業務提携を創りあげながら新業務への開拓を推進してまいります。また、輸送品質向上を図るため、見た目で解る物流の商品化を実行してまいります。

これら中長期的な取組みにより、一層の企業価値ひいては株主共同の利益の向上に取り組んでおります。

また、当社は、貨物自動車運送事業が主体事業であるため、公共性も高く、常に安定した物流サービス(安全・輸送品質・環境対策)を提供することを意識し、これらを具現化していくことにより、社会的使命を果たし、さまざまなステークホルダーから信頼されることを念頭に置く経営を目指しております。今後とも諸制度を整備し、コーポレート・ガバナンスの機能強化に努め、透明性のある公正な経営が実施される体制を整えていきたいと考えております。

当社取締役会につきましては、取締役6名(内1名は独立社外役員)で構成されており、経営陣幹部の選解任その他の重要な意思決定を通じて経営の監督を行っております。また、激しい企業環境の変化に迅速に対応し、責任の明確化を図り、職務遂行度をより厳しく問うことを目的として、取締役任期を1年としております。当社は、執行役員制度を導入しており、業務執行体制を明確化し、取締役の活性化と業務執行機能の強化を図っております。

当社の監査役会は、社外監査役2名(独立役員)を含む3名体制であり、監査の独立性を確保するとともに、経営の適法性と透明性の向上を図るため、取締役の職務の適法性及び妥当性について監査を行い機能強化に努めております。

なお、当社は、取締役の就任時及び就任後に必要とされる知識、情報を提供するため、適宜役員研修を実施しております。

このような体制整備のほか、当社では情報開示の充実がコーポレート・ガバナンスにとって有効な機能を果たすと考えており、各種の会社情報を適時、適切にかつ積極的に開示することによって、株主の皆様やその他外部からのチェック機能を高め、経営の透明度を高めることを今後とも充実させていきたいと考えております。

これらの取組みの充実を含め、今後とも一層のコーポレート・ガバナンスの強化をはかっていく考えであります。

中長期戦略に基づく取組みは、当社グループの企業価値を向上させ、当社の株主共同の利益を著しく損なう大規模な買付者が現れる危険性を低減するものと考えます。また、コーポレート・ガバナンスの強化充実に向けた取組みは、中長期戦略を推進し、企業価値ひいては株主共同の利益の向上を図る基盤となるものと考えます。したがって、かかる取組みは、会社支配に関する基本方針に沿うものであると考えます。

不適切な支配の防止のための取組みの概要

当社は、2019年6月26日開催の第106回定時株主総会において、 で述べた会社支配に関する基本方針に照らし、「当社株券等の大規模買付行為への対応方針」(以下「本対応方針」といいます。)の継続につき株主の皆様のご承認をいただきました。

本対応方針は、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為(市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意した者による買付行為を除きます。かかる買付行為を以下「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を以下「大規模買付者」といいます。)が行われる場合に、(a)大規模買付者が当社取締役会に対して大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を事前に提供し、(b)当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、かつ(c)取締役会又は株主総会が新株予約権無償割当て又はその他の法令及び定款の下でとりうる合理的な施策(以下「新株予約権無償割当て等」といいます。)の実施の可否について決議を行った後に大規模買付行為を開始する、という大規模買付ルールの遵守を大規模買付者に求める一方で、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう大規模買付行為を新株予約権無償割当て等を利用することにより抑止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させることを目的

とするものです。

当社の株券等について大規模買付行為が行われる場合、まず、大規模買付者には、当社代表取締役宛に大規模買付者及び大規模買付行為の概要並びに大規模買付ルールに従う旨が記載された意向表明書を提出することを求めます。さらに、大規模買付者には、当社取締役会が当該意向表明書受領後10営業日以内に交付する必要情報リストに基づき株主の皆様の判断及び当社取締役会の意見形成のために必要な情報の提供を求めます。

次に、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し前述の必要情報の提供を完了した後、60日間(対価を現金(円貨)のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合)又は90日間(その他の大規模買付行為の場合)を取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間とし、当社取締役会は、当該期間内に、外部専門家等の助言を受けながら、大規模買付者から提供された情報を十分に評価・検討し、後述の独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、当社取締役会としての意見を取りまとめて公表します。また、当社取締役会は、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会としての代替案を提示することもあります。

当社取締役会は、本対応方針を適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断を防止するための諮問機関として、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外取締役、当社社外監査役及び社外有識者の中から選任された委員からなる独立委員会を設置し、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しないため新株予約権無償割当てを実施すべきか否か、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるため新株予約権無償割当てを実施すべきか否か、新株予約権無償割当て等の実施の可否につき株主総会に諮るべきか否か等の本対応方針に係る重要な判断に際しては、独立委員会に諮問することとします。独立委員会は、(a)大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しないため新株予約権無償割当ての実施を勧告した場合、(b)大規模買付者による大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるため新株予約権無償割当ての実施を勧告した場合、及び(c)大規模買付者による大規模買付行為ないしその提案内容の評価、検討の結果、新株予約権無償割当ての不実施を勧告した場合を除き、新株予約権無償割当て等の実施の可否につき株主総会に諮るべきである旨当社取締役会に勧告を行います。

当社取締役会は、株主総会決議に従って、又は取締役としての善管注意義務に明らかに反する特段の事情がない限り独立委員会の前述の勧告を最大限尊重し、新株予約権無償割当て等の実施又は不実施に関する会社法上の機関としての決議を遅滞なく行います。新株予約権無償割当てを実施する場合には、新株予約権者は、当社取締役会が定めた1円以上の額を払い込むことにより新株予約権を行使し、当社普通株式を取得することができるものとし、当該新株予約権には、大規模買付者等による権利行使が認められないという行使条件や当社が大規模買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項等を付すことがあるものとし、また、当社取締役会は、当社取締役会又は株主総会が新株予約権無償割当ての実施を決定した後、新株予約権無償割当ての実施が適切でないと判断した場合には、独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、新株予約権無償割当ての実施の変更又は停止を行うことがあります。当社取締役会は、前述の決議を行った場合は、適時適切に情報開示を行います。

本対応方針の有効期限は、2019年6月26日開催の定時株主総会においてその導入が承認されたことから、当該定時株主総会の日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとし、その後の継続についても同様とします。なお、本対応方針の有効期間中であっても、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から、関係法令の整備や、金融商品取引所が定める上場制度の整備等を踏まえ随時見直しを行い、本対応方針の変更を行うことがあります。

なお、本対応方針の詳細については、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載する2019年5月9日付プレスリリースをご覧ください。(アドレス <https://www.tohbu.co.jp/>)

不適切な支配の防止のための取組みについての取締役会の判断

前記 基本方針の実現に資する特別な取組みは、に記載したとおり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための具体的方策であり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。

また、前記 の本対応方針も、に記載したとおり、企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるために導入されたものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。特に、本対応方針は、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置し、新株予約権無償割当て等の実施・不実施の判断の際には取締役会はこれに必ず諮問することとなっていること、独立委員会が株主総会に諮る必要がないと判断する限定的な場合を除き、原則として株主総会決議によって新株予約権無償割当て等の実施の可否が決せられること、本対応方針の有効期間は3年であり、その継続については株主の皆様のご承認をいただくこととなっていること等その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされている点におい

て、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 22,996,000 |
| 計 | 22,996,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日) | 提出日現在 発行数(株) (2020年8月14日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|--|---------------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 5,749,000 | 5,749,000 | 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード) | 単元株式数 100株 |
| 計 | 5,749,000 | 5,749,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2020年4月1日～ 2020年6月30日 | | 5,749,000 | | 553,031 | | 527,524 |

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------|----------|----------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 297,900 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 5,450,000 | 54,500 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 1,100 | | 1単元(100株)未満の株式 |
| 発行済株式総数 | 5,749,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 54,500 | |

(注)「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、「株式給付信託(BBT)」に係る信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式36,000株(議決権の数360個)が含まれております。なお、当該議決権の数360個は、議決権不行使となっております。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%) |
|----------------|---------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| 東部ネットワーク株式会社 | 横浜市神奈川区栄町2番地9 | 297,900 | | 297,900 | 5.1 |
| 計 | | 297,900 | | 297,900 | 5.1 |

(注)「株式給付信託(BBT)」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式は、上記自己名義所有株式数には含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

| | |
|---------|------|
| 資産基準 | 0.8% |
| 売上高基準 | % |
| 利益基準 | 0.5% |
| 利益剰余金基準 | 0.9% |

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2020年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (2020年6月30日) |
|-----------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 4,022,886 | 4,132,810 |
| 受取手形 | 26,286 | 29,669 |
| 電子記録債権 | 29,576 | 18,415 |
| 営業未収入金 | 1,084,820 | 1,030,178 |
| リース投資資産 | 16,562 | 13,140 |
| 原材料及び貯蔵品 | 22,822 | 20,893 |
| その他 | 110,507 | 115,030 |
| 流動資産合計 | 5,313,463 | 5,360,138 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 2,611,592 | 2,592,272 |
| 車両運搬具（純額） | 330,002 | 289,571 |
| 土地 | 8,344,656 | 8,344,656 |
| リース資産（純額） | 491,903 | 483,508 |
| その他（純額） | 2,218,903 | 2,208,625 |
| 有形固定資産合計 | 13,997,057 | 13,918,633 |
| 無形固定資産 | | |
| 無形固定資産 | 37,439 | 38,677 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,078,587 | 1,229,518 |
| 差入保証金 | 1,224,261 | 1,224,283 |
| その他 | 190,690 | 189,241 |
| 貸倒引当金 | 3,433 | 3,433 |
| 投資その他の資産合計 | 2,490,106 | 2,639,610 |
| 固定資産合計 | 16,524,603 | 16,596,920 |
| 資産合計 | 21,838,067 | 21,957,059 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2020年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (2020年6月30日) |
|-------------------|-----------------------|----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 995 | - |
| 電子記録債務 | 54,797 | 48,020 |
| 営業未払金 | 686,801 | 663,821 |
| リース債務 | 35,385 | 35,580 |
| 原油スワップ | 48,134 | 13,756 |
| 未払金 | 114,669 | 22,198 |
| 未払費用 | 210,587 | 293,678 |
| 未払法人税等 | 107,781 | 63,694 |
| 引当金 | 79,583 | 32,041 |
| その他 | 223,062 | 236,656 |
| 流動負債合計 | 1,561,798 | 1,409,449 |
| 固定負債 | | |
| リース債務 | 505,133 | 496,163 |
| 繰延税金負債 | 954,200 | 1,015,247 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 112,105 | 112,105 |
| 引当金 | 17,868 | 20,250 |
| 長期前受金 | 20,426 | 19,039 |
| 長期預り保証金 | 448,458 | 440,715 |
| 長期預り金 | 18,107 | 16,185 |
| 長期未払金 | 43,900 | 43,900 |
| 資産除去債務 | 16,706 | 16,765 |
| 固定負債合計 | 2,136,907 | 2,180,374 |
| 負債合計 | 3,698,705 | 3,589,824 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 553,031 | 553,031 |
| 資本剰余金 | 536,556 | 536,556 |
| 利益剰余金 | 17,422,843 | 17,542,657 |
| 自己株式 | 259,203 | 259,203 |
| 株主資本合計 | 18,253,228 | 18,373,042 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 310,183 | 415,158 |
| 繰延ヘッジ損益 | 6,171 | 3,085 |
| 土地再評価差額金 | 417,879 | 417,879 |
| 評価・換算差額等合計 | 113,867 | 5,807 |
| 純資産合計 | 18,139,361 | 18,367,235 |
| 負債純資産合計 | 21,838,067 | 21,957,059 |

(2) 【四半期損益計算書】

【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 3,058,218 | 2,689,224 |
| 売上原価 | 2,817,109 | 2,395,942 |
| 売上総利益 | 241,108 | 293,281 |
| 割賦販売未実現利益戻入額 | 428 | 308 |
| 割賦販売未実現利益繰入額 | 373 | 269 |
| 繰延リース利益戻入額 | 1,089 | 252 |
| 繰延リース利益繰入額 | 836 | 154 |
| 差引売上総利益 | 241,418 | 293,419 |
| 販売費及び一般管理費 | 99,672 | 120,215 |
| 営業利益 | 141,746 | 173,204 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 39 | 35 |
| 受取配当金 | 19,363 | 19,991 |
| デリバティブ評価益 | | 33,035 |
| その他 | 6,416 | 4,607 |
| 営業外収益合計 | 25,819 | 57,670 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 3,922 | 3,559 |
| 有価証券評価損 | 5,191 | |
| その他 | 135 | |
| 営業外費用合計 | 9,249 | 3,559 |
| 経常利益 | 158,315 | 227,315 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 17,978 | 8,008 |
| 特別利益合計 | 17,978 | 8,008 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 0 | 0 |
| 特別損失合計 | 0 | 0 |
| 税引前四半期純利益 | 176,294 | 235,324 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 40,877 | 60,579 |
| 法人税等調整額 | 18,208 | 14,048 |
| 法人税等合計 | 59,086 | 74,628 |
| 四半期純利益 | 117,208 | 160,695 |

【注記事項】

(追加情報)

(株式報酬制度)

当社は、2019年6月26日開催の第106回定時株主総会の決議に基づき、中長期的な企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、取締役(社外取締役を除く。)を対象とする株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」(以下「本制度」という。)を導入しております。

本制度に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じて、総額法を適用しております。

取引の概要

当社は取締役に対し、役員株式給付規程に基づき定まるポイントを付与し、役員退任時等に累計ポイントに応じた当社株式及び金銭を給付します。役員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理しております。

信託に残存する自社の株式

当社は、本信託に残存する当社株式を、本信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第1四半期会計期間末における当該自己株式の帳簿価額は35,820千円、株式数は36,000株であります。

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の影響については、今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、外部の情報源に基づく情報等を踏まえ、2020年中には当該状況が正常化していくなどの仮定を置き、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損会計等の会計上の見積りを行っております。また、当該会計上の見積りの仮定については、前事業年度から重要な変更はありません。

なお、見積りに用いた仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルス感染症の収束時期および経済環境への影響が変化した場合には、当事業年度における当社の財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 109,071千円 | 97,640千円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2019年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 67,688 | 12.50 | 2019年3月31日 | 2019年6月27日 | 利益剰余金 |

当第1四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2020年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 40,882 | 7.50 | 2020年3月31日 | 2020年6月26日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 調整額 (注) 2 | 四半期 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------|---------------|------------|-------------|----------------|-----------|--------------|------------------------------|
| | 貨物自動車 運送事業 | 商品販売 事業 | 不動産賃貸 事業 | その他事業 (注) 1 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,196,553 | 496,978 | 323,996 | 40,689 | 3,058,218 | | 3,058,218 |
| 計 | 2,196,553 | 496,978 | 323,996 | 40,689 | 3,058,218 | | 3,058,218 |
| セグメント利益 | 48,655 | 4,713 | 162,034 | 7,180 | 222,584 | 80,838 | 141,746 |

(注) 1. 「その他事業」は、自動車整備業、派遣業及び損保代理業等であります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書計上額(営業利益)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | | 調整額 (注) 2 | 四半期 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------|---------------|------------|-------------|----------------|-----------|--------------|------------------------------|
| | 貨物自動車 運送事業 | 商品販売 事業 | 不動産賃貸 事業 | その他事業 (注) 1 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,790,528 | 546,855 | 316,613 | 35,227 | 2,689,224 | | 2,689,224 |
| 計 | 1,790,528 | 546,855 | 316,613 | 35,227 | 2,689,224 | | 2,689,224 |
| セグメント利益 | 115,980 | 6,382 | 146,610 | 5,782 | 274,756 | 101,551 | 173,204 |

(注) 1. 「その他事業」は、自動車整備業、派遣業及び損保代理業等であります。

2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書計上額(営業利益)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日) |
|---------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 21円64銭 | 29円68銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(千円) | 117,208 | 160,695 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 117,208 | 160,695 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 5,415 | 5,415 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月14日

東部ネットワーク株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 飯塚正貴

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 奥谷 績

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東部ネットワーク株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第108期事業年度の第1四半期会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東部ネットワーク株式会社の2020年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認め

られる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。